

倒れた巨人、コイントス、
働く蒸気機関

ウォルター ピークとTSS アーンスロー号 のご紹介

The logo for Real nz, featuring the text "Real" stacked above "nz" in a bold, sans-serif font, enclosed within a white circle.

Real
nz

www.realjourneys.co.nz

1世紀を経て今なお現役…

湖の貴婦人

アーンスロー山にちなんで名づけられ、湖の貴婦人として親しまれている2軸スクリュー式蒸気船は、100年以上にわたり、ワカティブ湖周辺の人々と事業を支えてきました。

起源: 1912年J. マクレガー社がダニーデンで建造。ニュージーランドの鉄道網の一環となる政府の委託事業に応札し、20,850ポンドで造船を請け負いました。一旦組み上げた船を解体して、鉄道でキングストンまで運んでから7万個のリベットを使って完成しました。

活躍: 貨物船として導入されたアーンスロー号は、羊1,500頭を貨物室で、牛30頭をデッキで運べる容量がありました。アーンスロー号と外輪蒸気船アントリム号、マウンテニア号、スクリュー式蒸気船ベン・ローモンド号は、周辺の高原牧場に物資を運び、人々の生活を支えてきました。

修復: 1960年代に入って湖畔の道路が発達すると、船はあまり使われなくなっていました。やがて管理も行き届かなくなり、スクラップとして処分することが検討されました。そこへ手を差し伸べたのがリアル・ジャーニーズです。1969年、画期的な観光ベンチャーに転用するため全面的な改修が行われました。このとき、上層デッキを船室内に収め、機関室を見学できるようにし、プロムナード・カフェを設置しました。

現在: 石炭の火力を使う蒸気船で旅客サービスを提供しているのは、南半球ではアーンスロー号だけとなっています。100才を超えた今もTSSアーンスロー号は年に11ヶ月、夏は毎日14時間、現役で活躍しています。



基本データ

船舶仕様

巡航速度:

11ノット

建造:

フレーム78本、プレート140枚、
リベット7万個

全長:

51 m

重量:

337 t

船幅:

7.3 m

喫水:

2 m

ボイラー:

機関車型煙管ボイラー 2基
作動圧力: 6.5cm² あたり73 kg

石炭庫容量:

各 7 t (1日2回積載)

石炭消費量:

1時間当たり 1 t

蒸気プラント:

250馬力 三段膨張機関 2基

メインデッキ / ラウンジ:

建設当初の天然カウリ木材

乗客定員:

350名

歌との相性:

絶好



TSS アーンスロー号の建造 ▲



貨物船として活躍する TSS アーンスロー号 ▲

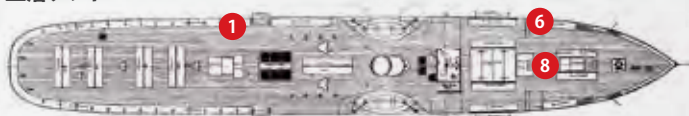


TSS アーンスロー号で働く機関員 ▲

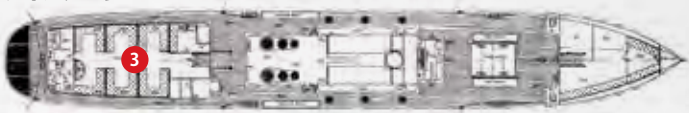
右舷図



上層デッキ



メインデッキ



下層デッキ



TSSアーンスロー号

- 1.プロムナードデッキ:**もとはオープンな造りになっていましたが、1970年代の改修時に囲って屋内にし、バーとカフェ、ダイニングが追加されました
- 2.機関室:**1970年代に、観光に訪れた人々が内部を見られるように改修されました
- 3.メインデッキ / ラウンジ:**もとは一等船室だった場所で、固有種のカウリの天然木材を使った美しい内装が特長です
- 4.フォクスル ギャラリー:**乗務員室を改装したギャラリーで昔の写真を展示しています
- 5.操舵室 / ブリッジ:**現在は屋内になっていますが、進水した当時はオープンな造りでした
- 6.ウィンチ:**貨物の積み下ろしに使われていたウィンチは現在でも使用可能な状態です
- 7.石炭庫:**容量は各7トン、毎日2回、石炭を積み込んでいます
- 8.コンクリートブロック:**大きなブロックは石炭を積み込んだ後、船のバランスを調整するのに使います

さらわれた乙女、そして劫火

湖の伝説

「巨人のくぼみ」と呼ばれる独特の形状の湖には、欲望と復讐の物語が伝えられています。

ある夜のこと、巨人のマタウが1軒の民家に忍び込み、マナタという乙女をさらっていきました。



ワカティプ湖 ▲



クィーンズタウンからワカティプ湖を望む ▲

マナタの恋人、マタカウリは、逃げる巨人を追跡しました。乙女は見つかったものの、頑丈な綱でマタウに繋がれていました。とても切れそうになくてマタカウリが涙を流すと、涙が綱を溶かしました。そうして恋人たちは一緒に脱出することができたのです。

マタカウリが振り返ると、熱い北西の風にあおられた火が眠っていた巨人を包みました。目を覚ましたマタウは膝をかかえて苦しみ、勢いを増す火に焼かれて、そのまま地中に沈んでいきました。周囲の山の雪は熱でとくされ、巨人の残したくぼみに流れ込みました。こうして、足を折り曲げた巨人の形をした湖ができました。ただ、巨人の心臓だけは消えることなく、水面下のどこかで鼓動を続けていて、湖の水位が定期的に上下する不思議な現象を起こしています。

湖の名前の由来には諸説ありますが
特に興味深いものといえば
ワカティプア
すなわち...

" 巨人のくぼみ "

リアル・ジャーニーズは1954年に観光業と環境保全
の先駆者、レス&オリブ・ハッチンスが創設した
家族経営の会社です。ミルフォード・サウンドとダウト
フル・サウンド、テ・アナウ、スチュアート島、クィーンズ
タウンで各種ツアーを催行しています。

国内無料 ☎ 0800 65 65 01
contact@realjourneys.co.nz
www.realjourneys.co.nz

The logo for Real nz is a white circle containing the text "Real" in a bold, sans-serif font above "nz" in a smaller, bold, sans-serif font.

Real
nz

アーンスロー山
2,819 m

陸路

船

* 実際の航路は
変更になる場合
があります

グレノーキー

ベンローモンド
1,748 m

クィーンズタウン

フランクトン

ウォルターピーク

セシルピーク
1,978 m

マヴォラ
レイクス

インバーカーギルへ

基本情報

ワカティプ湖

大きさ: 84km (ニュージーランドで2番目に長い湖)

標高: 312 m 強

水深: 平均 300 m, 現在知られている最深部は410 m

温度: 氷河の水が入るため冷たく、およそ12°C

温度変化は年間に1~2°C程度。

野生動物: ブラウントラウト、レインボートラウト、ニュージーランド
オオウナギ、サーモン、ウ、ハシグロカモメ、マガモなど

水位変化: 平均で7.5cm、最大20cm、6分周期で水位が上下する

理由: 周囲の山々からの風圧の変化に応じて局所的に生じる
静振という現象による

航路: クィーンズタウン~ウォルター・ピーク間
TSSアーンスロー号で 11km

南島のマオリ

狩猟・採集生活

この地域は農耕には向かない冷涼な気候で、付近のマオリの人々は年に一度、狩りで獲物を捕まえながら、クィーンズタウンやグレノーキーを通過して西海岸側へポウナム(グリーンストーン)の採取に出かけていました。ウォルター・ピークの近くでモアの骨や調理用の穴の跡が発掘されており、1700年代の終わり頃には湖畔にいくつか集落ができていたことが分かっています。

歴史の節目

表か裏か

コイントスの勝算に自信はありますか。ヨーロッパ系移民の運命はしばしばコインの表か裏かで分かれました。ある逸話では、1850年代の終わり頃、湖のどちら側の岸をとるか、という賭けをした男たちがいたそうです。一方のウィリアム・リーズはクィーンズタウン側を手にし、ゴールドラッシュの繁栄を迎えました。対するニコラス・ヴォン・タンゼルマンはウォルター・ピークのふもとに拠点を築きましたが、度重なる吹雪で家畜を失い、やがて諦めて立ち去ることになってしまいました。



ウォルターピークリゾート▲

ウォルターピーク

家系と地名

クィーンズタウンの通りや地区、地理的な目印には、土地に所縁のある家族の苗字に由来するものがたくさんあります。探検家、測量士として活躍したウィリアム・ギルバート・リーズは、クィーンズタウン開拓当初に定住し、身近な人々にちなんだ名前を多数残しました。

彼の息子、セシル・ウォルター・リーズは、セシル・ピークとウォルター・ピーク、2つの山の名前になっています。フランクトンという近郊地区の名前は妻のフランシスに由来しています。



開拓と定住

マッケンジー家の人々

1880年代後半にウォルター・ピークを入手したマッケンジー家は、転居後すぐに土地と建物の改善を始めました。

ヒュー・マッケンジーは、フェンスの設営や高原牧場の運営方法など、画期的な手法をこの地で導入しました。立派な邸宅を建て、有名な庭園を造ったのも彼の代の偉業のひとつです。

マッケンジーの一族は80年間にわたり牧畜を営み、不毛と言われた土地を利潤性の高い事業の場に変えました。ウォルター・ピーク高原牧場は最盛期には17万エーカーの土地で4万頭の羊を飼い、50人のスタッフを雇用していました。ここからロンドン市場へ運ばれていったメリノウールは、1930年代に3度もオセアニア産ウールでトップの成績をおさめ、有名なウェンブリー博覧会で1等賞を獲得しました。

挑戦と勝利

未来を築いた人々

カーネルズ・ホームステッドは1908年にピーター・マッケンジー大佐の結婚祝いに父親のヒューが贈ったものです。1977年の火災で邸宅も被害を受けましたが、丁寧に再建されました。



カーネルズ ホームステッドの火災
ウォルター・ピーク - 1977年4月 ▲



ウォルター・ピーク 付近 - 2015年 ▲

造園作業は1870年代に始まりました。その際に植樹されたプラタナスとオークはこの地域の外来樹では特に古いもので、保護対象となっています。1960年代には固有種のカウリの木々も植えられました。その後数十年の間にも手入れが進み、美しい庭園が楽しめるようになっています。

初期は特に孤立した環境にあったため、心の支えや癒しになるガーデニングのような活動はとても大切でした。かつてはクィーンズタウンに行くにも、手漕ぎボートで片道5〜7時間かかりました。それでもマッケンジー家の人々は日曜になると湖を渡り、教会に通っていたそうです。



犬は大事な働き手 ▲



メリノ種の羊 ▲



ハイランド牛 ▲



アカシカ ▲

野生動物

この地をすみかにする生き物

牧羊犬

牧場では2種類の犬がそれぞれの特性を生かして活躍しています。ボーダーコリーは最も知能が高く従順なことで知られる犬です。体力、集中力とも非常に優れており、吠えずにアイコンタクトを使って家畜をまとめます。ハンタウェイは逆のタイプで、吠え立てて群れを動かします。起伏の激しい地形で羊飼いの視界から群れが見えなくなっても、ハンタウェイなら音のやりとりで動きをコントロールできます。

ハンタウェイ

色: 黒・茶

特性: 敏捷、賢い、スタミナがある

寿命: 12 - 14 才

ボーダーコリー

訓練: 所要18ヶ月

特性: エネルギッシュで運動能力、知能とも高い

羊

ウォルター・ピークでは3種類の羊が飼育されています。メリノ種は羊毛専用の羊で非常に柔らかい世界でも最高級の羊毛がとれます。ロムニー種はニュージーランド特有の羊で、食肉と羊毛（繊維は粗いが丈夫）の両方が有用です。メリノ種と他の長毛種をかけあわせたコリデールも、食肉・羊毛の両用となっています。

メリノ

起源: スペインで開発された新しい品種

特性: 最高級のウール

用途: 羊毛のみ

コリデール

主な産地: ニュージーランド、オーストラリア、アメリカ、パタゴニア

用途: 羊毛、食肉両用

ファーマー

19世紀半ばに入植し農業を営んできた人々。土地とのつながりを重視した緊密なコミュニティを形成し、健康で勤勉なライフスタイルを維持しています。

ファーマー

コミュニケーション: 犬とは声と口笛と手の合図で意思疎通ができる

食性: 雑食、大麦とホップとイーストと水を使った飲み物を好む

牛、鹿

牧畜は羊だけを扱っているわけではありません。スコットランド原産のハイランド牛は寒さの厳しい環境に適した丈夫な品種で、脂肪分の少ない赤身の肉が特長です。アカシカは狩猟用にオーストラリアから持ち込まれました。牧場で多数飼育される一方、野生化したものも多く、狩猟の対象となっています。

ハイランド牛

牛の縁故: 英国女王のバルモラル城付属荘園より入手

特徴: 大きな角、長めの赤毛

性能: 山の厳しい環境でも食べられるものを上手に見つける

LAKE WAKATIPU



ウォルター・ピーク再生プロジェクト

リアル・ジャーニーズは2014年にウォルター・ピーク高原牧場の一部をなすカーネルズ・ホームステッド周辺の土地を購入し、牧場の本来の姿を取り戻すための大規模なプロジェクトに着手しました。セントラル・オタゴの周辺地域と同様、ウォルター・ピークの155ヘクタールに及ぶ広大な土地にも外来種の雑木や雑草が広く繁茂していたため、これを除去することから始めました。さらに、所々に固有種の樹木をまとめて植えたり、眺めの良いビーチ・ポイントに至る一般遊歩道を湖畔に整備したりしています。